



### 清水寺の石碑

清水寺の境内に大きな石碑があるのをご存じでしょうか。場所は音羽に滝からまっすぐな道なりにあるのですがこの道は出口に向かう道なので、ついつい急ぎ足になり通り過ぎてしまいます。清水寺の境内の「南苑」と呼ばれる場所にあります。この石碑は建ててまだ新しく平安建都1200年の際に建てられた記念碑です。日本列島の東北地方の地図が描かれています。そして「阿弋流為 母禮 之碑」と難しそうな名前が彫られています。「アテルイ モレ ノ ヒ」と読みます。「アテルイとモレ」の2人は平安時代初期の東北地方のいわゆる蝦夷の族長だったのです。蝦夷とは「えみし」「えぞ」と読み室町時代の頃まで現在の北は北海道から岩手・山形県あたりまで支配していた民族です。鎌倉時代には蠣崎・かきざきと名乗り、江戸時代には松前と改めて、徳川幕府の管轄下になります。

ここに征夷大將軍坂上田村麻呂が登場します。征夷大將軍として知名度は抜群です。しかし日本最初の征夷大將軍は大伴弟麻呂という人物です。そして大將軍の補佐役の副將軍が坂上田村麻呂でした。この大將軍の元で武勇をたてやがて「征夷使」の称号を授けられます。そして正式に797年(延暦16年)11月に桓武天皇により征夷大將軍に任じられます。ちなみに征夷大將軍の言葉の語源は「蝦夷を征伐するための大軍団を率いる將軍」という意味合いになります。

さっそく蝦夷に向かった田村麻呂は知略と武力で蝦夷を圧倒しさらに蝦夷側の要衝であった胆沢の地を攻略しそこに城を築きます。実は過去にも何回も蝦夷征伐に向かったのですが、その都度、アテルイとモレに立ちばかれ進行できなかったのです。しかし、そんな歴代の將軍の中でも抜きん出た知恵と腕力を持つ田村麻呂に恐れをなし、ついに精銳500人を率いて、田村麻呂に降伏を願い出たということです。田村麻呂もアテルイとモレの2人の器に感服し、京都御所へ連れて帰り天皇に公式的に許しをいただき、2人を蝦夷の地へ送り返そうとしたが、天皇側はだんじて降伏を認めず、ついに柘山(枚方)で、首をはねてしまいました。田村麻呂の努力もむなしく、落胆この上もなかったと思われます。蝦夷の人々は田村麻呂を裏切り者としてたいそう恨んだそうです。しかしときが流れ、過去の凍り付いた事実を浮き彫りにして田村麻呂が2人に篤い恩情をかけた事が明らかにされていくこと

になります。

時は流れ、現在、今も族長としてアテルイとモレに崇敬を寄せている胆沢の人々が田村麻呂の篤い温情に感謝を捧げ、和解の意味合いで石碑を建てたいと懇願し清水寺へ申し出たそうです。清水寺側この申し出を快く受け入れ、丁度1994年に平安建都1200年祭があり、イベントの一環として大いに盛り上がったそうです。ちなみに田村麻呂は清水寺の創建者（開基）です。それ故胆沢の方々は、後世に伝えるためにもこの地が一番という思いであったのでしょうか信憑性は定かではありませんがアテルイとモレをはじめとする蝦夷の霊を弔うために田村麻呂は清水寺に帰依したともいわれています。そういう意味ではアテルイとモレのゆかりの寺なのです。

#### {征夷大將軍}

制偉大將軍とは平安時代初期~置かれた東北地方の蝦夷を討伐するために新たに出来た役職名です。しかし鎌倉時代には、はやくもイメージは薄れ、幕府を開く武士のトップという地位に様変わりしました。奈良時代にも蝦夷征伐はしばしば行われており、その名を陸奥鎮東將軍として派遣、征伐に向かっていました。坂上田村麻呂將軍が征夷大將軍としてはあまりにも有名ですが、初代は大伴弟麻呂という人物でした。その際、田村麻呂は副將軍として活躍しそのまま引き続いて大將軍に抜擢されたということです。

#### {坂上田村麻呂}

平安時代の征夷大將軍としても高名な大納言坂上田村麻呂は、歴史的事実とはかけ離れた説話・軍記物語・寺社の縁起などに頻繁に登場したことでその人物像も次第に史実から解離が進んで伝説化してゆきました。平安時代の公卿、武官。名は田村麿とも書く。姓は忌寸のうち大忌寸。大宿禰。4代の天皇に仕えて忠臣として名高く桓武天皇の軍事と造作を支え、二度にわたり征夷大將軍を勤め功績を残した。父は左京太夫・坂上菟田麻呂。官位は大納言正三位兼右近衛大将兵部卿。勲二等。贈従

